

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

— 平成 1 4 年 2 月 調査結果 —

(平成 1 4 年 3 月 4 日)

○調査期間：平成 1 4 年 2 月 1 9 日～2 5 日

○調査対象：全国の 3 9 7 商工会議所が 2 6 2 2 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 7 製造業 6 3 6 卸売業 2 3 7
小売業 7 5 3 サービス業 6 0 9

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

※ D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 4 / 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>) でもご覧になれます。

【平成14年2月調査結果のポイント】

全産業業況DI値2.7ポイント悪化。厳しさ強まる中小企業の景況感

- 2月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、建設業を除く4業種でマイナス幅が前月水準より拡大したことから、前月水準（▲60.4）よりマイナス幅が2.7ポイント拡大して▲63.1となった。昨年12月、5.5ポイントもの大幅なマイナス幅拡大により、平成10年12月以来3年ぶりにマイナス60ポイント台となった後、前月はその反動もあって若干縮小したが、今月は再び拡大し、昨年12月を下回る水準となった。調査開始（平成元年4月）以来の最低値である▲66.9（平成10年8月）にさらに近づいており、地域経済や中小企業の足元の景況感は、一層厳しさが強まっている。

建設業では、道路工事など年度末のスポット的な発注ありとの声の一部あるもの、「昨年より少雪のため除雪作業の売上が減少」（一般工事）、「企業の設備投資の減少が目立つ」（電気工事）といった声をはじめ、公共工事、民間工事とも発注が極めて少なく、その少ない発注をめぐって受注競争が激化しているとの声が多く寄せられた。

製造業では、「主要発注元（繊維機械メーカー）の受注生産増が現実の操業度上昇に現れてきつつある」（金属加工機械製造）、「ほんの少しだが、今月に入って好転の兆しが見えてきている」（金属素形材製品製造）といった声の一部寄せられているが、その一方で、引き続き、「顧客の経費節約のため受注が減少」（印刷業）、「廉価な輸入家具の増加、従来の問屋・小売店の減少から、地場の木製家具の販売数量が減少」（家具製造）、「取引先の売上不振による発注減の状況が、当分の間続くと思われる」（自動車・同附属品製造）、「コストダウン要請が厳しくなっている」（自動車・同附属品製造）、「原材料価格は上昇したが、製品価格を値上げできない業界動向。採算悪化が懸念」（加工紙製造）、「狂牛病の影響で倒産が1件出ている」（農業用機械製造）など、厳しい状況を訴える声が多く寄せられた。

卸売業では、「狂牛病問題に加え大手食品メーカーによる食肉詰め替え事件で、食料品卸に影響大」（総合卸）、「発泡酒の増によりビールが減少し、売上減」（食料・飲料卸）、「業況は厳しく、資金繰りも苦しい状況」（農畜産水産物卸）などの厳しい状況を訴える声が多く寄せられた。

小売業では、「高額品の好調もあり客単価がアップ」（百貨店）、「中堅スーパーの閉店等により、近隣の食料品店は客数・売上とも増加」（商店街）といった声や、「卒業・入学期の需要増に期待」（商店街）といった今後への期待も寄せられたが、その一方で、引き続き客単価の減少についての声が多く寄せられたほか、「暖冬のため、冬物商品の処分セールが不調」（百貨店）、「買い控え傾向がより一層進行」（百貨店）、「地元の老舗店舗の廃業が目立つ」（商店街）などの厳しい声が多く寄せられた。特に、食品関係について、「狂牛病、大手食品メーカーによる食肉詰め替え問題等で食品は打撃を受けている」（百貨店、商店街）「食品表示に対する不信感が高まり、食料品の動きが鈍くなっている」（百貨店）といったコメントが寄せられている。

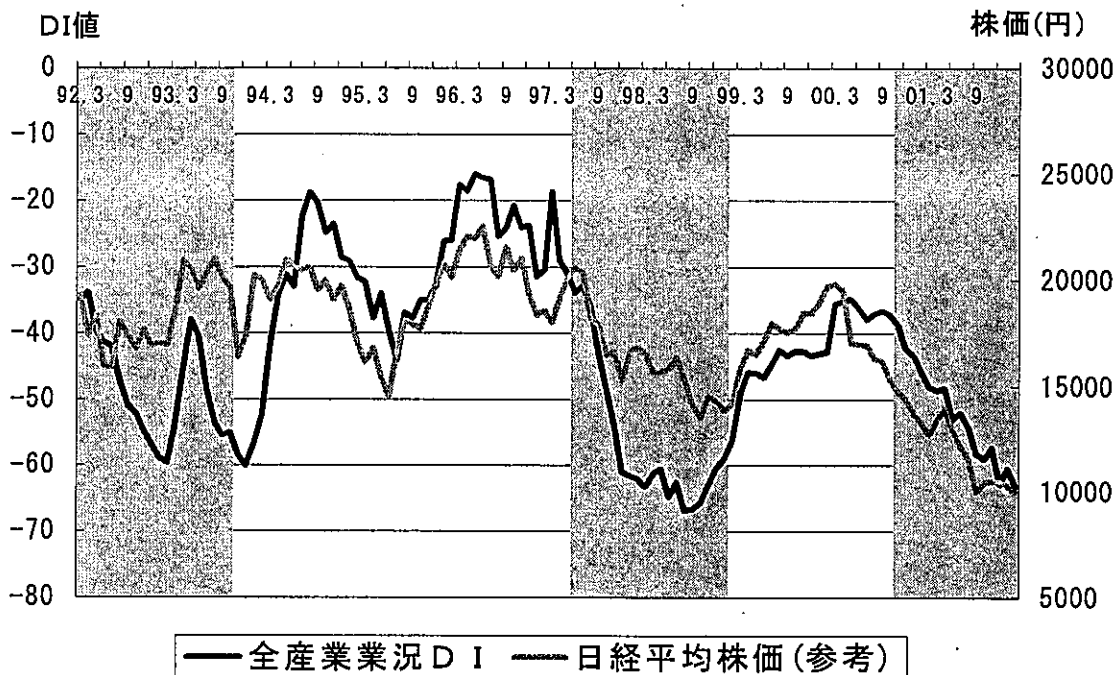
サービス業では、特に、旅館から「工事滞在者の減少により苦戦」、「会社関係の利用が少ない」といった厳しい状況を訴える声が多く寄せられたほか、「ガソリンスタンド等の整備業進出により売上が大きく落ち込んでいる」（自動車整備）、「郊外にある大型・低価格の飲食店に客が流れる。他の業種での景気悪化のため外食も減少」（食堂・レストラン）、「円安により燃料である軽油が値上げされ、採算ベースが悪化」（輸送サービス）などの声が多く寄せられている。

売上面では、小売業、サービス業および製造業で前月水準に比べてマイナス幅が

拡大したことから、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が2.1ポイント拡大して▲56.0となった。採算面では、建設業を除く4業種でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が1.9ポイント拡大して▲55.9となった。

- 向こう3ヵ月(3月~5月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が▲49.4と、昨年同時期の先行き見通し(▲38.0)に比べて厳しい見方となっている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、年度末から次年度にかけての公共工事の受注動向や、年度代わりの需要期における個人消費の動向などについての関心が高い。

《参考》過去10年間の全産業・業況DI値の推移



【業況についての判断】

○ 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、建設業を除く4業種でマイナス幅が前月水準より拡大したことから、前月水準（▲60.4）よりマイナス幅が2.7ポイント拡大して▲63.1となった。昨年12月、5.5ポイントもの大幅なマイナス幅拡大により、平成10年12月以来3年ぶりにマイナス60ポイント台となった後、前月はその反動もあって若干縮小したが、今月は再び拡大し、昨年12月を下回る水準となった。調査開始（平成元年4月）以来の最低値である▲66.9（平成10年8月）にさらに近づいており、地域経済や中小企業の足元の景況感は、一層厳しさが強まっている。

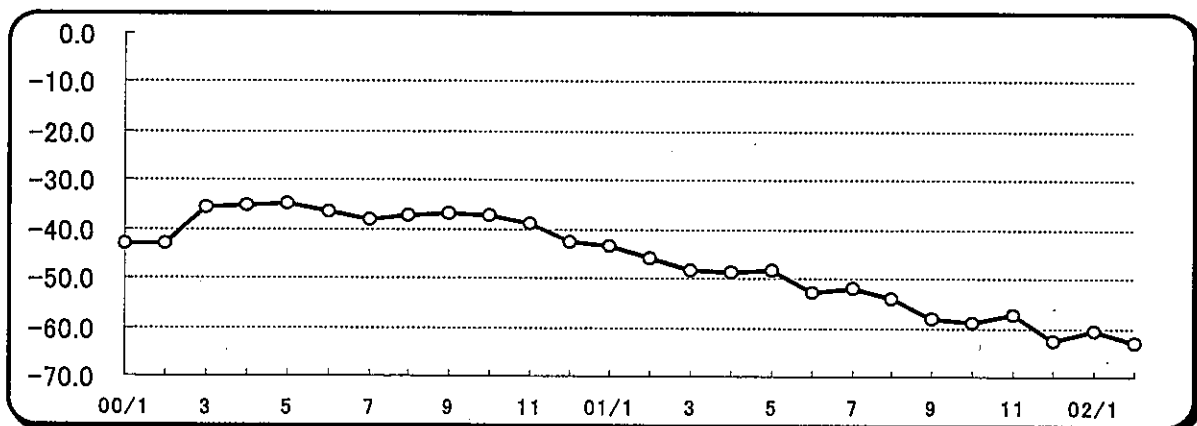
○ 向こう3ヵ月（3月～5月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲49.4と、昨年同時期の先行き見通し（▲38.0）に比べて厳しい見方となっている。

業況DI（前年同月比）の推移

	13年 9月	10月	11月	12月	14年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲58.2	▲59.0	▲57.3	▲62.8	▲60.4	▲63.1	▲49.4 (▲38.0)
建設	▲64.8	▲69.5	▲66.3	▲70.7	▲69.1	▲69.0	▲63.1 (▲49.6)
製造	▲61.5	▲62.6	▲64.9	▲69.9	▲64.4	▲65.1	▲49.9 (▲37.6)
卸売	▲62.6	▲70.6	▲66.5	▲70.2	▲68.2	▲70.9	▲52.7 (▲39.5)
小売	▲53.0	▲53.0	▲50.1	▲56.2	▲52.9	▲59.6	▲45.2 (▲39.7)
サービス	▲54.5	▲50.5	▲47.3	▲54.2	▲55.9	▲58.2	▲43.2 (▲27.4)

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3ヵ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年2月の先行き見通しDI<以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



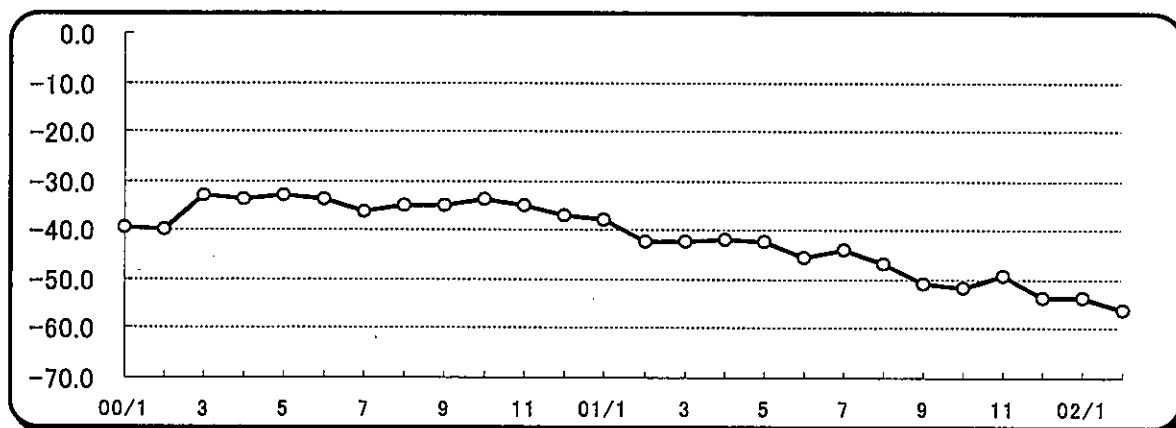
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、小売業、サービス業および製造業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が2.1ポイント拡大して▲56.0となった。
- 向こう3ヵ月（3月～5月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI（今月比ベース）が▲41.3と、昨年同時期の先行き見通し（▲29.3）に比べて厳しい見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	13年 9月	10月	11月	12月	1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲50.8	▲51.8	▲49.4	▲53.9	▲53.9	▲56.0	▲41.3 (▲29.3)
建設	▲60.1	▲60.7	▲60.4	▲60.0	▲63.6	▲62.8	▲57.7 (▲44.3)
製造	▲50.9	▲53.9	▲54.6	▲60.0	▲59.6	▲60.6	▲42.8 (▲25.0)
卸売	▲55.1	▲61.4	▲59.4	▲57.0	▲63.1	▲62.3	▲40.0 (▲28.4)
小売	▲45.9	▲45.9	▲42.9	▲46.9	▲45.2	▲50.8	▲36.7 (▲32.1)
サービス	▲48.4	▲46.5	▲39.7	▲50.1	▲47.9	▲49.9	▲34.0 (▲20.3)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



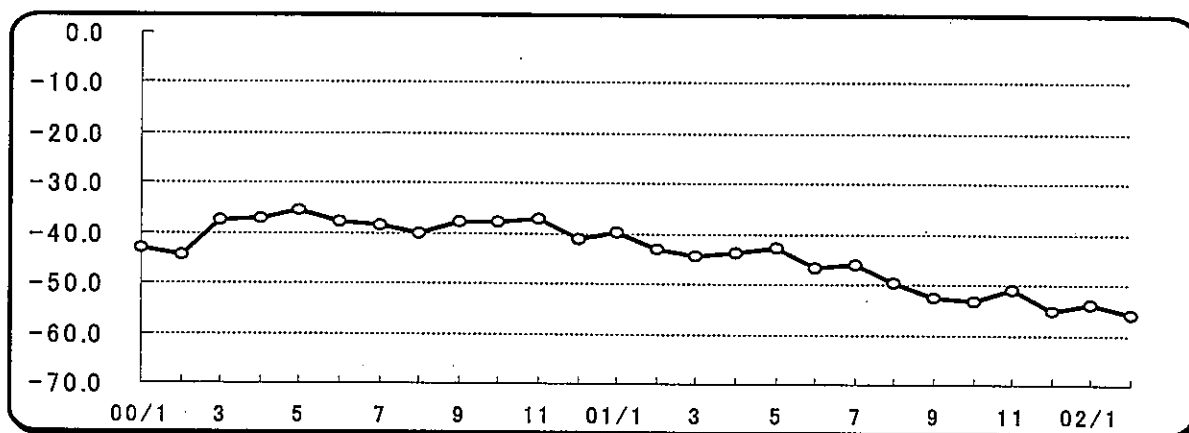
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、建設業を除く4業種でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が1.9ポイント拡大して▲55.9となった。
- 向こう3ヵ月(3月～5月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲42.8と、昨年同時期の先行き見通し(▲31.5)に比べて厳しい見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	13年 9月	10月	11月	12月	14年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲52.6	▲53.1	▲50.8	▲55.2	▲54.0	▲55.9	▲42.8 (▲31.5)
建設	▲63.2	▲64.2	▲63.4	▲64.4	▲69.1	▲65.0	▲58.4 (▲47.9)
製造	▲59.4	▲59.5	▲59.6	▲63.5	▲60.4	▲61.3	▲45.3 (▲31.1)
卸売	▲52.4	▲58.2	▲51.6	▲57.6	▲57.3	▲61.6	▲44.7 (▲28.4)
小売	▲43.0	▲43.5	▲40.8	▲45.4	▲43.1	▲48.5	▲36.4 (▲31.7)
サービス	▲49.6	▲47.5	▲44.0	▲50.1	▲48.5	▲50.6	▲36.4 (▲21.5)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比) の推移

	13年 9月	10月	11月	12月	14年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全産業	▲ 37.3	▲ 37.1	▲ 38.6	▲ 42.5	▲ 41.2	▲ 42.7	▲ 37.3 (▲ 25.3)
建設	▲ 42.8	▲ 43.2	▲ 47.7	▲ 53.2	▲ 45.7	▲ 49.3	▲ 49.6 (▲ 36.2)
製造	▲ 41.9	▲ 43.4	▲ 44.8	▲ 51.8	▲ 48.2	▲ 49.3	▲ 43.1 (▲ 24.5)
卸売	▲ 37.5	▲ 34.4	▲ 37.4	▲ 35.7	▲ 43.0	▲ 40.6	▲ 33.6 (▲ 28.1)
小売	▲ 30.2	▲ 28.9	▲ 29.1	▲ 34.3	▲ 32.3	▲ 37.4	▲ 30.3 (▲ 23.7)
サービス	▲ 35.1	▲ 34.3	▲ 35.1	▲ 34.1	▲ 37.7	▲ 36.0	▲ 31.9 (▲ 19.1)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】建設業、製造業および小売業で悪化超感が強まる。

【先行き見通しD I】全業種で、昨年同時期に比べ悪化超感が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	13年 9月	10月	11月	12月	14年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全産業	4.2	2.1	4.9	5.1	3.7	2.1	▲ 1.9 (▲ 2.6)
建設	2.2	5.0	6.3	4.1	1.5	2.6	▲ 0.7 (▲ 5.7)
製造	▲ 0.5	▲ 4.8	0.7	1.4	▲ 3.1	▲ 5.0	▲ 6.9 (▲ 5.1)
卸売	11.0	9.9	12.3	18.7	14.7	11.3	0.0 (2.5)
小売	10.0	7.7	7.9	12.0	11.4	8.7	3.3 (2.4)
サービス	0.8	▲ 2.0	1.6	▲ 4.1	▲ 1.3	▲ 1.8	▲ 4.5 (▲ 6.0)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】建設業を除く4業種で下落超感が弱まる。

【先行き見通しD I】建設業、小売業およびサービス業で、昨年同時期に比べ下落超感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	13年 9月	10月	11月	12月	14年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲ 15.7	▲ 17.2	▲ 16.8	▲ 19.2	▲ 19.3	▲ 19.4	▲ 18.5 (▲ 12.5)
建設	▲ 29.0	▲ 31.2	▲ 31.5	▲ 34.6	▲ 34.5	▲ 36.5	▲ 33.2 (▲ 25.3)
製造	▲ 22.9	▲ 25.6	▲ 26.2	▲ 30.7	▲ 30.2	▲ 27.7	▲ 25.5 (▲ 16.8)
卸売	▲ 16.3	▲ 20.3	▲ 18.7	▲ 19.2	▲ 24.2	▲ 21.9	▲ 17.7 (▲ 15.9)
小売	▲ 5.8	▲ 8.4	▲ 4.5	▲ 7.2	▲ 8.1	▲ 9.8	▲ 11.2 (▲ 6.5)
サービス	▲ 10.2	▲ 7.3	▲ 9.9	▲ 9.5	▲ 8.1	▲ 8.9	▲ 9.6 (▲ 4.8)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比D I】建設業、小売業およびサービス業で過剰超感が強まる。

【先行き見通しD I】全業種で、昨年同時期に比べて過剰超感が強まる見通し。

【平成14年2月の景気キーワード】

○ 先行き不透明感

「主要発注元（繊維機械メーカー）の受注生産増が現実の操業度上昇に現れてきつつある」（松任・金属加工機械製造）といった生産増の兆しや、「高額品の好調もあり客単価がアップ」（宇都宮・百貨店）といった声、さらには、消費の需要増が見込まれる年度替わり期への期待を込めた声も寄せられている。しかしながら、依然として、先行きの業況に関する不透明感や先行きへの不安に関する指摘が多く寄せられている。建設業からは、「国の公共投資削減と地方自治体による工事量減少により、先行き見通し悪化」（和歌山・一般工事）などの声が、製造業からは、「顧客の経費節約のため受注が減少」（柏崎・印刷業）、「廉価な輸入家具の増加、従来の問屋・小売店の減少から、地場の木製家具の販売数量が減少」（静岡・家具製造）、「取引先の売上不振による発注減の状況が、当分の間続くと思われる」（高崎・自動車・同附属品製造）、「コストダウン要請が厳しくなっている」（安城・自動車・同附属品製造）などの声が寄せられている。また、卸売業・小売業・サービス業からは、「買い控え傾向がより一層進行」（佐野・百貨店）、「工事滞在者の減少により苦戦」（酒田・旅館）、「会社関係の利用が少ない」（四日市・旅館）、「ガソリンスタンド等の整備業進出により売上が大きく落ち込んでいる」（帯広・自動車整備）、「郊外にある大型・低価格の飲食店に客が流れる。他の業種での景気悪化のため外食も減少」（伊那・食堂・レストラン）などの声が寄せられている。

○ 倒産・廃業

今月についても、長引く低迷や先行き見通しが厳しい影響から、倒産や廃業についてのコメントが多く寄せられた。「当会の中でも狂牛病の影響で倒産が1件出ている等厳しい状況が続いている」（帯広・農業用機械製造）、「最近では、身近に廃業も見られる」（加茂・金属加工機械製造）、「取引先メーカーの倒産・廃業で仕入れ単価が上昇し採算悪化」（宇都宮・繊維品卸）、「消費地問屋の倒産が引き続き発生」（瀬戸・家具・建具等卸）、「地元の老舗店舗の廃業が目立つ」（町田・商店街）などの指摘が寄せられている。

○ 食品表示問題

1月23日、狂牛病対策の食用牛肉の買い取り制度を巡り、大手食品メーカーが外国産牛肉を国産牛の箱に詰め替える偽装をし、業界団体に買い取らせていたことが発覚したことを契機に、食品表示に関する問題が顕在化した。今月は、この問題に関し、消費者の購買行動に影響が出ているとのコメントが寄せられた。「狂牛病やトマトの産地偽装事件等、食品に関する不信感が強まっている」（熊本・食料品製造）、「狂牛病問題に加え大手食品メーカーによる食肉詰め替え事件で、食料品卸・小売に影響大」（帯広・総合卸、伊那・百貨店ほか）、「食品表示に対する不信感が高まり、食料品の動きが鈍くなっている」（山形・百貨店）などの声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
13年12月	先行き不透明感	倒産・廃業	
14年 1月	先行き不透明感	倒産・廃業	円安
2月	先行き不透明感	倒産・廃業	食品表示問題

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。道路工事など年度末のスポット的な発注ありとの声の一部あるものの、「昨年より少雪のため除雪作業の売上が減少」（一般工事）、「企業の設備投資の減少が目立つ」（電気工事）といった声をはじめ、公共工事、民間工事とも発注が極めて少なく、その少ない発注をめぐって受注競争が激化しているとの声が多く寄せられた。
製 造	業況・売上・採算D Iとも、前月のマイナス幅縮小から反転し、いずれも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「主要発注元（繊維機械メーカー）の受注生産増が現実の操業度上昇に現れてきつつある」（金属加工機械製造）、「ほんの少しだが、今月に入って好転の兆しが見えてきている」（金属素形材製品製造）といった声の一部寄せられているが、その一方で、引き続き、「顧客の経費節約のため受注が減少」（印刷業）、「廉価な輸入家具の増加、従来の間屋・小売店の減少から、地場の木製家具の販売数量が減少」（家具製造）、「取引先の売上不振による発注減の状況が、当分の間続くと思われる」（自動車・同附属品製造）、「コストダウン要請が厳しくなっている」（自動車・同附属品製造）、「原材料価格は上昇したが、製品価格を値上げできない業界動向。採算悪化が懸念」（加工紙製造）、「狂牛病の影響で倒産が1件出ている」（農業用機械製造）など、厳しい状況を訴える声が多く寄せられた。
卸 売	売上D Iは前月水準に比べてマイナス幅が縮小したが、業況・採算D Iはマイナス幅が拡大している。「狂牛病問題に加え大手食品メーカーによる食肉詰め替え事件で、食料品卸に影響大」（総合卸）、「発泡酒の増によりビールが減少し、売上減」（食料・飲料卸）、「業況は厳しく、資金繰りも苦しい状況」（農畜産水産物卸）などの厳しい状況を訴える声が多く寄せられた。
小 売	業況・売上・採算D Iとも前月のマイナス幅縮小から反転し、いずれも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「高額品の好調もあり客単価がアップ」（百貨店）、「中堅スーパーの閉店等により、近隣の食料品店は客数・売上とも増加」（商店街）といった声や、「卒業・入学期の需要増に期待」（商店街）といった今後への期待も寄せられたが、その一方で、引き続き客単価の減少についての声が多く寄せられたほか、「暖冬のため、冬物商品の処分セールが不調」（百貨店）、「買い控え傾向がより一層進行」（百貨店）、「地元の老舗店舗の廃業が目立つ」（商店街）などの厳しい声が多く寄せられた。特に、食品関係について、「狂牛病、大手食品メーカーによる食肉詰め替え問題等で食品は打撃を受けている」（百貨店、商店街）「食品表示に対する不信感が高まり、食料品の動きが鈍くなっている」（百貨店）といったコメントが寄せられている。
サービス	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が拡大、特に業況D Iは3ヵ月連続で拡大している。特に、旅館から「工事滞在者の減少により苦戦」、「会社関係の利用が少ない」といった厳しい状況を訴える声が多く寄せられたほか、「ガソリンスタンド等の整備業進出により売上が大きく落ち込んでいる」（自動車整備）、「郊外にある大型・低価格の飲食店に客が流れる。他の業種での景気悪化のため外食も減少」（食堂・レストラン）、「円安により燃料である軽油が値上げされ、採算ベースが悪化」（輸送サービス）などの声が多く寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

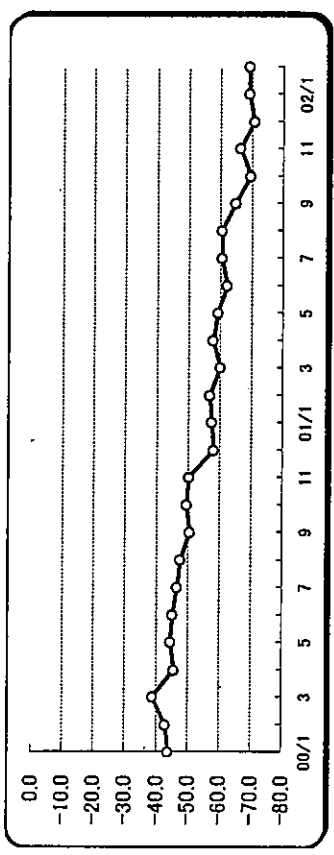
- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）をみると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。また、北海道および関東の両ブロックで前月水準に比べてマイナス幅が縮小、他の各ブロックで拡大した。
- ブロック別の向こう3ヵ月（3月～5月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。また、全ブロックにおいて、昨年同時期の先行き見通しに比べて厳しい見方となっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

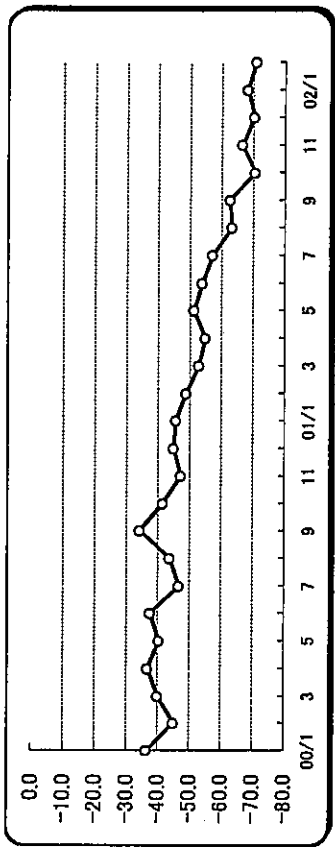
	13年 9月	10月	11月	12月	14年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全 国	▲ 58.2	▲ 59.0	▲ 57.3	▲ 62.8	▲ 60.4	▲ 63.1	▲ 49.4 (▲ 38.0)
北 海 道	▲ 44.3	▲ 39.7	▲ 42.9	▲ 44.3	▲ 52.0	▲ 48.1	▲ 40.0 (▲ 38.1)
東 北	▲ 60.3	▲ 59.6	▲ 63.4	▲ 66.0	▲ 65.7	▲ 67.6	▲ 64.1 (▲ 46.4)
北陸信越	▲ 57.1	▲ 62.0	▲ 50.6	▲ 61.5	▲ 63.8	▲ 65.4	▲ 50.3 (▲ 24.1)
関 東	▲ 55.8	▲ 54.8	▲ 52.3	▲ 59.5	▲ 58.5	▲ 55.9	▲ 41.0 (▲ 30.9)
東 海	▲ 57.5	▲ 63.8	▲ 55.3	▲ 67.8	▲ 63.4	▲ 69.0	▲ 52.5 (▲ 44.4)
近 畿	▲ 61.8	▲ 65.8	▲ 68.7	▲ 68.8	▲ 66.7	▲ 71.4	▲ 59.8 (▲ 40.2)
中 国	▲ 63.8	▲ 64.1	▲ 62.7	▲ 68.2	▲ 57.5	▲ 65.3	▲ 48.6 (▲ 41.0)
四 国	▲ 69.2	▲ 65.2	▲ 63.5	▲ 67.9	▲ 58.3	▲ 70.2	▲ 47.4 (▲ 40.5)
九 州	▲ 56.1	▲ 58.6	▲ 58.0	▲ 62.4	▲ 54.5	▲ 60.5	▲ 45.6 (▲ 45.2)

業況DI (前年同月比) の推移 (全国)

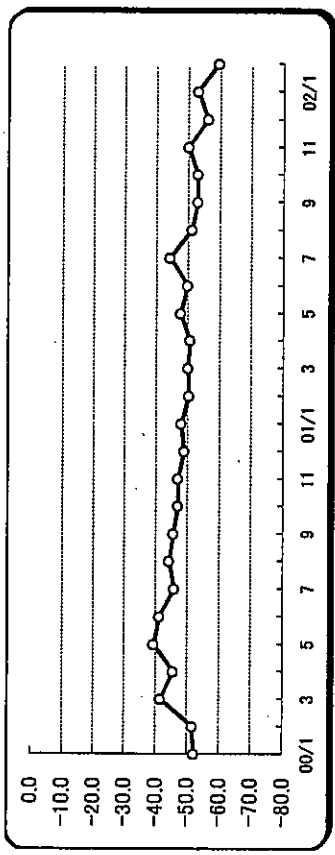
建設業



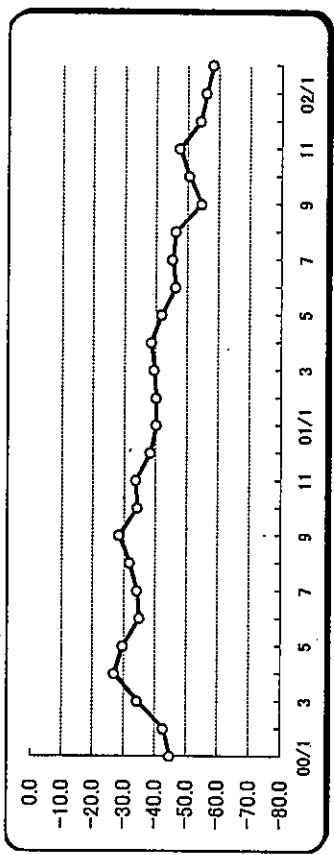
卸売業



小売業



サービス業



製造業

